

# 【簿記知識判定テスト】

問題 標準時間30分

以下の取引の仕訳及び決算整理仕訳を行いなさい。勘定科目は次の中から適当なものを選ぶこと。

【資産勘定】	【負債勘定】	【費用勘定】	【収益勘定】	【評価勘定】
当座	買掛金	仕入	売上	貸倒引当金
現金	未払金	棚卸減耗損	受取地代	減価償却累計額
繰越商品	支払手形	商品評価損	有価証券評価益	
売掛金	前受地代	通信費	車両売却益	【中間勘定】
未収金	未払配当金	営業費	有価証券利息	現金過不足
有価証券	未払法人税等	減価償却費		
備品		貸倒損失		
車両	【純資産勘定】	有価証券評価損		
投資有価証券	資本金	雑損失		
仮払法人税等	資本準備金	車両売却損		
	利益準備金	法人税等		
	繰越利益剰余金			
	別途積立金			

## 問題 1

商品240,000円を売上げ、140,000円については当社が振り出した小切手で受け取り、残額については得意先振出しの小切手を受け取った。

-----  
-----

## 問題 2

当社は、現金過不足勘定12,000円(貸方残)の原因について調査したところ、売掛金の入金額32,000円と営業費の支払額18,000円の記帳漏れが判明した。しかし、残りの不足額については原因が不明のため雑損失として処理することにした。

-----  
-----  
-----

**問題 3**

決算にあたり、取引銀行の当座残高証明書と当社の当座勘定残高を照合したところ、残高は一致していなかった。調査の結果、下記のことが判明した。

- ①営業費支払いのために振り出した小切手21,000円が未渡しであった。
- ②電話代23,000円が引き落とされていたが、当社では未記帳であった。
- ③買掛金支払いのため、仕入先に振り出した小切手52,000円がまだ銀行に未呈示であった。
- ④売掛金の決済による入金65,000円あったが、当社では未記帳であった。

-----  
-----  
**問題 4**

受取地代45,000円は、9月1日から6カ月分の地代の受取額である。よって、決算整理仕訳を行う。なお、会計期間は1年で、決算日は12月31日である。

-----  
**問題 5**

商品50,000円を仕入れ、代金の支払いとして小切手20,000円と約束手形30,000円を振出した。  
(三分割法による。)

-----  
**問題 6**

商品20,000円を仕入れ、代金の支払いとして、かねてから売掛金のあるA社宛の為替手形を振出し、A社の引受けを得て仕入先に渡した。(三分割法による。備忘記録は不要。)

-----  
**問題 7**

株式100株を1株あたり10,000円で発行し、全額の払込みがあり当座口座に入金された。なお、資本金計上額は、会社法規定の最低金額とすること。

-----  
**問題 8**

株主総会において、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当等が下記のとおり確定した。  
配当金 100,000円、利益準備金 10,000円、別途積立金(積立) 50,000円

**問題 9**

平成X3年 9 月30日に、不要となった営業用車両（取得日：平成X2年 4 月 1 日、取得原価：20,000 円、減価償却方法：定額法、耐用年数：5 年、残存価額：取得原価の10%、記帳方法：間接法）を 13,000円で売却し、代金は翌月末に受取ることにした。なお、当期売却時までの減価償却費もあわせて計上すること。（当期：平成X3年 4 月 1 日～平成X4年 3 月31日）

-----  
-----  
-----  
-----

**問題10**

決算にあたり、備品の減価償却費（1 年分）を計上した。備品の期首帳簿価額は20,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は 8 年である。  
減価償却方法は定率法（償却率0.25）により、仕訳の記帳方法は直接法による。

**問題11**

次の資料により、決算整理仕訳（三分割法）を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算すること。

<資料>

- 1. 決算整理前残高試算表の一部（単位：円）  
繰越商品 20,000 仕入 110,000 売上 125,000
- 2. 決算整理事項  
期末商品棚卸高 30,000円

-----  
-----

**問題12**

次の資料により、決算整理仕訳（三分割法）を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算し、棚卸減耗損及び収益性の低下による評価損は売上原価には算入しないものとする。

<資料>

1. 決算整理前残高試算表の一部（単位：円）

繰越商品	30,000	仕入	200,000	売上	250,000
------	--------	----	---------	----	---------

2. 商品の期末棚卸状況

帳簿棚卸数量	1,000個	原価	@20円
--------	--------	----	------

実地棚卸数量	980個	正味売却価額	@19円
--------	------	--------	------

-----  
-----  
-----

**問題13**

得意先が倒産し、得意先に対する売掛金500,000円が回収不能となった。なお、貸倒引当金勘定の残高は400,000円であった。

-----  
-----

**問題14**

決算に際し、当期の法人税等450,000円が確定した。この金額から期中において支払った中間納付額240,000円を控除した金額を未払法人税等として計上する。

-----  
-----

**問題15**

決算にあたり、以前に売買目的として52,000円で取得していた株式につき、期末における時価が60,000円であったため評価替えを行った。

-----  
-----

**問題16**

所有する満期保有目的債券は、当期1月1日にA株式会社が発行した社債につき140,000円(額面200,000円)を小切手を振出して取得したものであり、償却原価法(定額法)を採用している。なお、この社債の発行条件は期間3年、利率年3%、利払日は12月31日である。利息については、現金により受け取っている。よって、利払日及び決算日の仕訳を行いなさい。(決算年1回 12月31日)

-----  
-----